

レファレンス・コーナー -- アジ研図書館のオセア ニア資料 (ブックシェルフ)

著者	石? えり子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	151
ページ	55-55
発行年	2008-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005036

レファレンス

コーナー

アジ研図書館の オセアニア資料

石崎えり子

日本語では大洋州と訳されるオセアニアは赤道を挟んで南北両半球におよび、日付変更線の東西にまたがる太平洋の大半を含む広範な領域である。オーストラリア大陸と比較的大きなニュージーランド、パプアニューギニア島を除くとそのほとんどが太平洋上に散在する島嶼群からなっている。当館の資料収集対象地域としてのオセアニアは主にオーストラリア、ニュージーランドを除いたメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの三地域である。当館のオセアニア資料の特色として文化や社会など人類学を扱った図書の蔵書が多いことが挙げられる。一九世紀の太平洋諸島の文化、社会を紹介した貴重なマイクロフィルム資料である Pacific Island culture & society : the papers of the Reverend George Brown (一八三五年～一九一七年)、Methodist missionary, from the State Library of New South Wales もそのひとつである。キリスト教メンジスト教徒の宣教師として一八六〇年から主にサモアを中心に、ニュー

ブリテン、ニューアイルランド、ニューギニア(現在のバプアニューギニア地域)、ソロモン諸島、ポリネシアなどに四八年に渡って滞在したジョージ・ブラウン(一八三五年～一九一七年)による太平洋諸島の文化と社会を紹介した記録である。ジョージ・ブラウンは『宝島』の作者として有名なロバート・ルイス・ステイブンソンを友人に持ち、ロンドン動物学会の優れた通信員としての観察力を持って、訪れた多くのポリネシア諸国について詳細で分かりやすい記録やメモを残した。ここで紹介するのは、それらをマイクロフィルムに複製した資料である。二二リールに渡るフィルムには彼が滞在した国々に関する書簡、二二七点の写真、先住民の生活や言語などに関するメモ類、手書きの自伝などが収められている。当時の人々の風俗習慣やポリネシア文化、社会を知ることができる貴重な資料である。またジョージ・ブラウンは記録やメモの他、布教活動の間に多くの民族資料も収集していた。そのコレクションは彼の死後イギリスで所蔵されていたが、その後何度かの売却を経て、現在民博(国立民族学博物館)に所蔵されている。

第一次世界大戦後にミクロネシアの南洋群島(現在のマーシャル諸島、パラオ、ミクロネシア連邦、北マリアナ諸島)は日本の委任統治領となり、それらを統括する南洋庁が一九二二年四月にパラオに開設され

た。一九四五五年のポツダム宣言発露で事実上消滅するまでの間南洋庁から南洋群島に関する様々な資料が出版されている。所謂南洋庁関連の資料も所蔵している。行政機関の出版物として代表的なものに『日本帝国委任統治地域行政年報』(クレス出版 一九九九年)がある。これは施政機関の年次報告書として一九三八年まで刊行されたものの復刻版である。原本の出版は一九二五年版から外務省となっている。当館所蔵は一九二〇年から一九三八年まで。同じく復刻版で出版されている南洋廳編『南洋廳統計年鑑』第一巻～第四巻(青史社 一九九三年)には人口、土地、行政、衛生、教育・宗教、産業、交通・通信、商業・金融、財政、貿易、社会事業に至る基本的な統計指標が掲載されている。第一回年鑑(昭和八年刊)には大正一年の南洋庁開設年から昭和六年までの統計指標が、第九回年鑑(昭和十六年刊)には昭和十四年までの統計指標が掲載されている。当時の南洋群島を概観する資料には『南洋群島要覧』(南洋廳)があり昭和十七年(一九四二年)までほぼ毎年出版されている。当館所蔵は昭和七年版と昭和九年版。その他、南洋庁の施政十周年を記念して出版された南洋廳長官々房編『南洋廳施政十年史』(南洋廳 一九三二年)、南洋廳長官々房調査課編『南洋群島現勢』昭和十四年度版(南洋群島文化協会 一九三九年)や『サイパン支廳管内

概要』昭和三年度版(南洋廳サイパン支廳 一九三八年)なども所蔵。人口調査も大正九年(一九二〇年)に第一回目の国勢調査が実施されているが驚くことにこの国勢調査は日本本土においての第一回国勢調査と同年に実施されている。その後も国勢調査は五年毎に行われ報告書も出版されている。当館所蔵は第三回、第四回の『南洋群島島勢調査書』昭和五年(南洋廳 一九三二年)および『南洋群島島勢調査書』昭和一〇年(南洋廳長官官房文書課 一九三七年)。昭和五年の調査報告書は全四巻(括編、島民編、邦人外国人編、顛末)。同じく一〇年の報告書は全二巻(統計表、顛末)から成っている。南洋群島文化協会、南洋協會南洋群島支部編『南洋群島寫真帖』(南洋群島文化協会 一九三八年)には委任統治下にあった各島の島民の生活、風俗習慣、芸能、伝承文化、教育などの写真はもとより、日本によって開発が進んだ糖業、水産業などの産業の写真も掲載されており、当時の南洋群島の様子が見て取れる。ただ、これらの資料の多くは収集時期が古く、残念ながら地域別配架にはなっていない。また復刻版を除く資料の多くは出版から半世紀をゆうに経っており破損劣化が進み、開架から開架書架への移動や、資料によっては電子化してこれらの資料の保存を図っている。

(いしざき えりこ)アジア経済研究所図書館